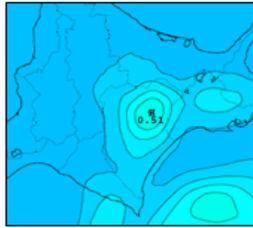
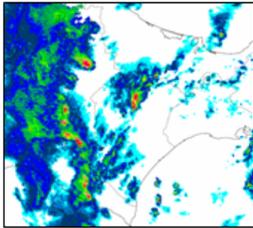
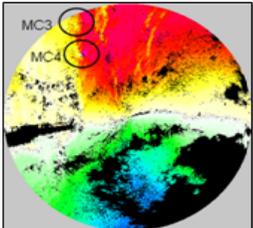


今後の取り組みについて

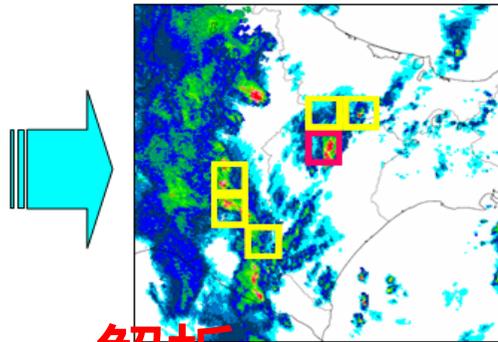
平成19年11月29日
第2回 突風等短時間予測情報利活用検討会
気象庁

多様な利用が可能な数値データで提供する短時間予測情報(仮称)

- 10分刻みで1時間先まで予測する格子点データ -

数値予報 (ポテンシャル)	レーダー (雨量強度等)	ドップラーレーダー (メソサイクロン)
		
竜巻が発生する 可能性のある 領域(広範囲)	竜巻が発生する 可能性のある 積乱雲の検出	竜巻が発生する 可能性が高い メソサイクロンの検出

危険域を解析



解析

平成22年度開始

突風、雷、降水、それぞれについて格子点データとして作成

突風等の発生の可能性を、10分刻みで1時間先まで予測

利用者の用途に応じて設計された監視画面(各利用者が構築)

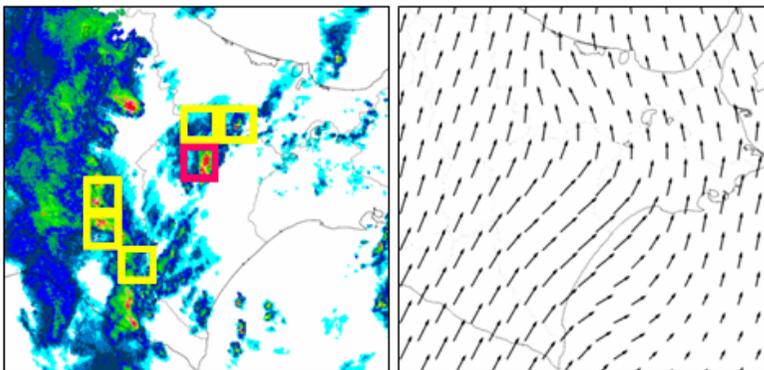
各利用者



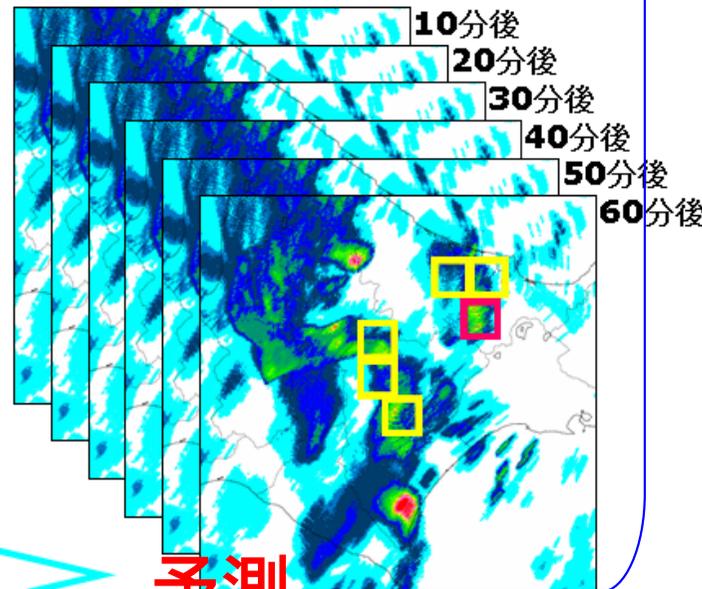
防災端末等による監視

時々刻々変化する突風等発生の可能性を詳細に把握

解析された危険域 + 移動速度



危険域の移動を予測する技術の開発

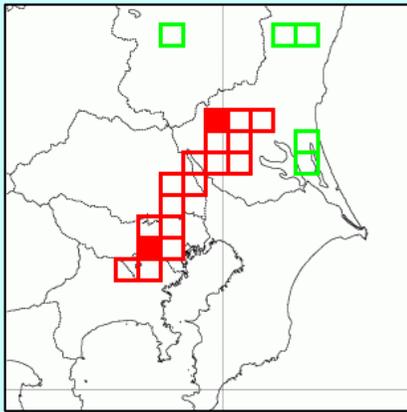


予測

平成22年度に開始する短時間予測情報のイメージ

(仮称)

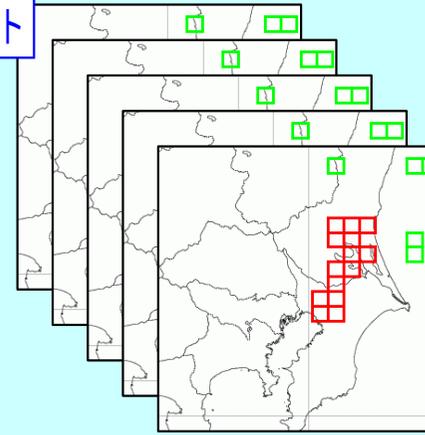
突風



解析

格子間隔: 10km
表示要素: 突風危険度
表示階級
□ : 突風注意格子 (可能性有)
□ : 突風危険格子 (可能性高)
■ : 突風判定格子 (危険検出格子)

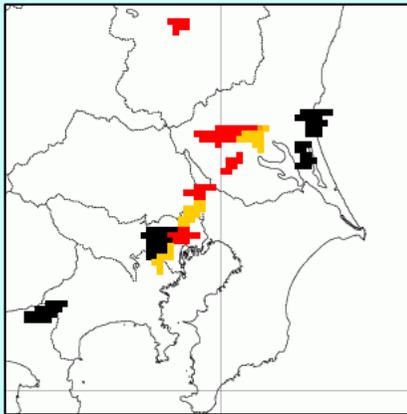
新規プロダクト



予測

格子間隔: 10km
表示要素: 突風危険度予測
10分毎に60分先まで
表示階級
□ : 突風注意格子 (可能性有)
□ : 突風危険格子 (可能性高)

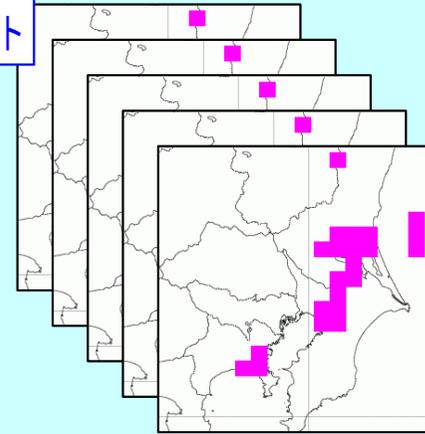
雷



解析

格子間隔: 1km
表示要素: 発雷状況
表示階級
■ : 落雷有
■ : 雲間放電有
■ : 今後発雷の可能性有

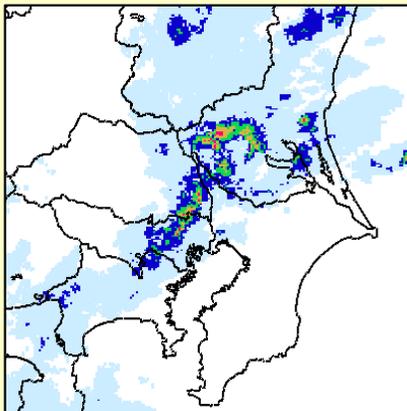
新規プロダクト



予測

格子間隔: 10km
表示要素: 発雷予測
10分毎に60分先まで
表示階級
■ : 発雷予測格子

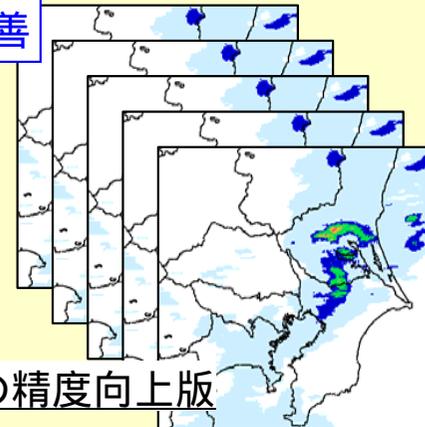
強雨



解析

格子間隔: 1km
表示要素: 降水強度
表示階級
■ : 5mm/h ■ : 30mm/h
■ : 50mm/h ■ : 80mm/h

既存プロダクトの改善



予測

格子間隔: 1km
表示要素: 降水強度予測
10分毎に60分先まで
表示階級
■ : 5mm/h ■ : 30mm/h
■ : 50mm/h ■ : 80mm/h

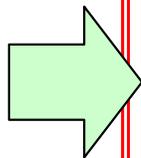
「降水ノウキャスト」の精度向上版

平成20年度利活用検討会のポイント(案)

さらに、竜巻等突風から、生命を守るため・・・

平成22年度からの提供を検討している「突風等短時間予測情報(仮称)」について、具体的な利用・伝達の方法、利用上の注意等に係るガイドラインの策定

- ・防災システムのコンテンツ例の提案
(含 凡例や注意事項メッセージなどの例)
- ・平成19年度末開始の「竜巻注意情報」と組み合わせた利用方法の提案



危険作業現場等、情報の利活用に積極的な機関等からの声を聞き取りながら策定を進め、実効性のある内容を目指す

早々にガイドラインを示すことで・・・

- ・平成22年、本資料提供開始時点から、民間気象事業者等による特定事業者向けコンテンツの提供開始を目指す。
- ・一般向け報道への活用についても、並行して検討

今後の取り組み

情報そのものの改善

資料の蓄積、手法の改善による捕捉率、適中率等の向上
突風に関する気象情報の内容改善

平常時からの周知・広報

突風に関する現象の啓発
情報の利活用に関する周知・広報

放送・通信関係機関との調整

様々な伝達手段確保により情報の利活用拡大を図る
それぞれの伝達手段が持つ特性を踏まえて調整する必要がある。

- テレビ、ラジオ等マスメディア
- ケーブルテレビ、ミニFM局、広報車、防災行政無線
- デジタルテレビのデータ放送、携帯電話
- インターネットなど

常に、ICTの進展による新たな通信・放送手段の活用も視野に入れる。